

「令和元年度第4回人と自然が織りなす，輝くまち創生有識者会議」議事概要

審議会等の名称	令和元年度第4回人と自然が織りなす，輝くまち創生有識者会議
開催日時	令和2年2月7日（金） 午前10時00分から午後0時00分
開催場所	阿見町役場 4階 全員協議会室
議 題	<p>(1) 第2期総合戦略策定の進捗状況について</p> <p>(2) 国の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略等について</p> <p>(3) 阿見町人口ビジョンの改訂について</p> <p>(4) 第2期阿見町人と自然が織りなす，輝くまち創生総合戦略（案）について</p> <p>(5) 答申書（案）について</p>
議事結果	<p>【出席者】 (委員) 大平委員，牧山委員，海山委員，国井委員，蓮田委員，成島委員，山口委員，木村委員，田島委員</p> <p>(町) 千葉町長 湯原町長公室長 政策秘書課：佐藤課長，糸賀補佐，高村主任，宮本主任</p> <p>【会議の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2期総合戦略策定の進捗状況について，事務局より説明。 ・ 国の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略等について，事務局より説明。 ・ 阿見町人口ビジョンの改訂について，事務局より説明。 ・ 第2期阿見町人と自然が織りなす，輝くまち創生総合戦略（案）が，事務局より示された。 ・ 答申書（案）の審議を経て，委員長より町長に答申があった。 <p>【主な意見】</p> <p><阿見町人口ビジョンの改訂について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 24，25 ページの人口構成の推移の図は，人口ビジョンの中でも重要な部分だと思う。人口 5 万人を達成しても，2050 年には高齢化率が 30%半ばで，今の中山間地域の平均と同程度になるというのはショッキングな内容である。また，生産年齢人口は将来的に増えると見込んでも，年少人口は増える見込みはない。これは将来的には再び高齢化を引き起こす可能性があり，子どもを増やさないと解決しないだろう。ただし，阿見町の状況は全国的にはかなり良い方ではあると思う。（委員） ・ SDG s に取り組む企業が増えており，34 ページに示す町の基本的な方向性も SDG s に合致するものだと思う。今後は，SDG s の考え方を軸にして，企業と今まで以上に連携していくことができるのではないか。外部活力を使うことで，より積極的に取り組めると思うがどうか。（委員）

⇒SDG s については、総合戦略の中で、各施策が SDG s のどのゴールに繋がっているのか、アイコンを用いて示している。各施策を進めるにあたって、職員や関係者が SDG s のゴールを意識しながら取り組めるように示し、浸透を図っていききたい。(町)

- ・SDG s への取組みについて、町職員は活動に参加する段階まで至っているか。(委員)

⇒まずは SDG s を意識して活動するという段階で、そこまでには至っていない。(町)

- ・高齢者施策をさらに進めていく必要がある。34 ページの町の持続的発展に関する基本的な方向性の3つめが子育て支援になっていて高齢者への支援について記載がないので、高齢者への支援について加筆してはどうだろうか。災害が少なく大きな病院がある阿見町では、福祉や医療はひとつの個性だと思う。それから、町の持続的発展に関する基本的な方向性で、SDG s に触れるかどうかも検討してほしい。(委員)

- ・人口5万人をめざすために転入を確保していかななくてはいけないが、この転入は、どの世代で確保することを想定しているのか。(委員)

⇒年少人口及び生産年齢人口に均等に転入を確保するという内容で想定している。(町)

- ・子育て世代の流入を図っていけば、人口推計シミュレーションの数字は改善できると思う。また、より理想的な人口構成を目指すため、子育てに対する支援や福祉を充実させてはどうか。人口ビジョンには、子育て世代の移住に取り組むと謳ってみてはどうか。(委員)

⇒33 ページの目指すべき将来の方向性の中に、子育てに対する支援や福祉についての文言を追記したい。(町)

- ・33, 34 ページの目指すべき将来の方向性に「子育て世代を中心に」や、転入についての部分に「子ども」という表現を入れてみてはと思う。日本全体で子どもを大切にしなければならない時代が来たのだと思う。(委員)

- ・SDG s の「質の高い教育」と「住み続けられるまちづくり」は方向性がぴったり合っているので、意識して取り組んでほしい。(委員)

- ・人口ビジョンの中に「教育」を入れていくのは少し強引かもしれない。総合戦略の中で触れるくらいで良いかもしれない。(委員)

- ・ここ数年で小学校が2校廃校になっているが、町全体で通学する小学生の数は減っているのか。(委員)

⇒市街化区域の小学校では児童が増えており、市街化調整区域では減っている傾向はある。(町)

- ・将来的に小学生の数が減るという見通しをもとに統廃合を進めているので、ここ数年で極端に小学生の数が減っているということはないと思う。(委員)

・人口減は子どもの数の減少や廃校に繋がりやすいので、質問させてもらった。県内でも子どもの数を増やそうと取り組んでいる市町村はいくつもあるが、つくばみらい市などは成果を出しており、TX など明確な強みがある。阿見町も近隣に荒川沖駅があるので、駅を軸に、駅からの距離や駅が使える利便性をアピールしてみてもどうか。（委員）

・荒川沖駅については、人口ビジョンのなかでも触れているので、子どもや子育て世代を絡めた書き方を追記できるのであれば追記してください。（委員）

<第2期阿見町人と自然が織りなす、輝くまち創生総合戦略（案）について>

・阿見町人口ビジョンの改訂についてのなかで、子どもがいる世代の移住、高齢者の福祉、教育の話などがあったので、このことについて、必要に応じて加筆してください。（委員）

<答申書（案）について>

・『子育て世代を含む若い世代に「住みたい」「住み続けたい』』の部分で「住みたい」を「住んでみたい」にしてはどうか。移住を意識した文面になると思う。（委員）

・国の総合戦略のキーワードの一つに「関係人口」がある。答申にも盛り込んではどうか。（委員）

・「教育や医療に関する機関が集積している」の文言の前に「質の高い」と入れてみてはどうか。それにより、その後の「住んでみたい」「住み続けたい」につながると思う。（委員）

・「教育や医療」を「教育・医療」にして「質の高い」が両方の言葉にかかるようにしたい。（委員）

午後0時00分終了